

# 平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 14	公益目的事業 19
主査名	高見淳史 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授	
研究テーマ	新しいモビリティサービスと総合的都市交通計画	
<b>研究の目的：</b> <p>都市交通計画・都市計画にとって、自動運転車両（AV）や Mobility as a Service（MaaS）などの新たな技術やサービスが登場しつつある昨今～近未来は重要な転換点である。本研究プロジェクトはこの認識のもと、前年度に引き続き、新技術・新サービスの登場や普及の動向を踏まえつつ、それらを都市の中へ受け入れるにあたっての計画論に関する分析と検討を一層深めることを目的として進めた。</p>		
<b>研究の経過（4月～3月）：</b> <p>研究会を3回開催し、メンバーや外部講師からの研究発表や話題提供に基づいて討議を行う形式で進めた。具体の経過は次項で併せて述べる。</p>		
<b>研究の成果（自己評価含む）：</b> <p>第一に、①AVの普及による短期的な交通行動変化とアクセシビリティへの影響、②AV乗合タクシーの事業性、③地域空間構造が複合的公共交通サービスの効率性に与える影響を、それぞれエージェントベースシミュレーションにより分析した。特に、①では郊外部におけるアクセシビリティ向上効果を定量的に示し、②では個人保有AVの空き時間を活用した乗合サービスの可能性を検討するとともに、分析に関わる今後の課題を整理した。</p> <p>第二に、過年度実施したWebアンケート調査データを用いて、ドライバーとしてのライドシェアリングへの参加意向の分析を実施し、トリップの特性（目的、ライドシェアに起因する移動時間・到着時間のズレ）や個人属性が参加意向に与える影響を説明する確率モデルを構築した。</p> <p>第三に、わが国のライドシェアサービスの現況と展望、2019 TRB Annual Meetingに見る研究動向、米国における Transportation Network Company への課税の状況、国土交通省の相乗りタクシー実証実験の結果など、国内外における関連動向の情報を収集し、報告に基づいて議論した。</p> <p>以上のほか、「バスとタクシーが無料で実質乗り放題」の実験結果、Metro-MaaSが居住地選好に与える影響の予備的調査結果、台湾におけるLRT・MRTの整備動向などについて討議を行った。総じて、新しいモビリティサービスに関する研究と実践の動向を追うとともに、分析と計画のあり方への理解を深めることができたと評価する。</p>		
<b>今後の課題：</b> <p>エージェントベースシミュレーションに関して、改善すべき点がより明確になってきたことから、これを改善して新技術・サービスの実装手法やそれを含む交通計画・施策を検討することが課題である。ライドシェアに関しても、参加意向モデルとパーソントリップデータを組み合わせてマッチング成立可能性を分析することが課題である。</p>		